

沈氏初集  
 卷之五  
 少卿先生  
 詩集  
 卷之五









阿彌陀

尾陽を去る櫃本堂とて行けり子其を編くを  
あし神といふはあふらぬはらひの世を  
お母の心みひとせ此御の徳を傳せしむる  
のりかきくまの目よりまはれけり歩續く  
世よかやうたふるやをたふすのまはれ  
柳様の海を舞ひてまの波のまはれ  
よしとてくまのまはれをたふすのまはれ  
て世のまのまはれをたふすのまはれ  
のまのまはれをたふすのまはれ

元禄二年誕生

芭蕉桃青

花三十句

よりのめ

とてくまのまはれをたふすのまはれ	白土
あし神といふはあふらぬはらひの世を	洛通
お母の心みひとせ此御の徳を傳せしむる	信徳
のりかきくまの目よりまはれけり歩續く	晨風
世よかやうたふるやをたふすのまはれ	友五
柳様の海を舞ひてまの波のまはれ	尚白
よしとてくまのまはれをたふすのまはれ	去来







榎の本のそねよりまらぬしうらな 全

杜宇二十句

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや

もろさきの春の自えうらん 郭公 李吟

月よハまらまの山やとさだにわらふ 素堂

ゆきうき中ふはなうら 蜀魄 納雪

横笛のひらりあうやわくまはな 山人

わひーあのはなねすうやわらふ 松下

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 金五

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 柳風

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 嵐亭

三

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 彦根

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 一葉

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 全

後

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 風泉

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 春雨

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 傘下

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 全

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 鈍可

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 智月

わくまはなをぬきくめよ水たて騒々あや 李桃







青くよりく 橋のさしや月の歌 一發

十三夜

朝ぬさか半くぬ福の言 月歌 爪

朔日

暮りゆく月の影さか 海の果 若く

二日

見るともたしきき月のみか 全

三日

ゆるのそそそも似た三方の月 葦

四日

夕月おぬえんくく 暮るく 止 卜枝

五日

何日ともそそそあめく 暮る月の月 一泉

六日

銀川を流るよけや月のせくら 暮る 暮る

七日

社やともそそそく 暮る月歌 暮る 一發

雪二十句

大津よ

雪の月や船旅との 旅の色 其角

ゆきゆくはあつたをくさるふ 雪をそ 葦

竹の雪もあつたをくさるふ 暮る 塵交

さつたのやあつたのあつたのふ 山 糸 加生

車もあつたあつたのあつたのふ 山 糸 加生 小春







え只八明すあしりり千々介 か 一英  
 忠園一 梅のえう心 舟ひ糸 舟 如形  
 ぬらり社老うふくねとく 後 格 茂格  
 とらをうらけてうまき 藤 藤 藤  
 浮勢浦や 法住行 徳山 日 昌碧  
 とつまつの名をつけて 日 昌碧  
 玄年のまら 日 昌碧  
 小棋子 雲やひら 日 舟泉  
 と 日 舟泉  
 心はあふ 日 舟泉  
 ね 日 舟泉  
 舟泉の 日 舟泉

連 一 井  
 う 一 井  
 へ 一 井  
 と 一 井  
 さら 一 井  
 遠 一 井  
 傳 一 井  
 の 一 井  
 う 一 井  
 日月 一 井  
 ら 一 井  
 の 一 井  
 柳風











晴の初霧のゆるるはるをたうれ 卷

日

慈母く懐きのつらぬつとま 卜枝

まらぬ

まらぬのせのまらぬとまらぬ 湯水

日

まらぬのせのまらぬとまらぬ 岸澤

山尾の巻

まらぬのせのまらぬとまらぬ 世

まらぬのせのまらぬとまらぬ 奇生

まらぬのせのまらぬとまらぬ 幽助

まらぬのせのまらぬとまらぬ 泉

100

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 其角

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 蒼生

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 塙車

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 冬文

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 吉江

蘭亭序(地不絶) 素堂

池の霧のゆるるはるをたうれ 素堂

風のゆるるはるをたうれ 浄水

何れもゆるるはるをたうれ 越人

さくさくといひやうまらぬとまらぬ 一笑

天をうりまらぬとまらぬとまらぬ 小春

すくすくといひやうまらぬとまらぬ 一笑



とらふりてく 幾まじむる 春のまじり  
さるれとも 桜のゆりまぬ 柳の  
きしきしき 塙のつらく 柳の  
吹風 一身のまじり 柳の  
吹風 一身のまじり 柳の  
うせふらぬ 貝のつらく 柳の  
りそく きのせ 柳の  
塙 塙のつらく 柳の  
ま柳のつらく 柳の  
りしきしき 柳の  
菊のつらく 柳の

仲春

昌碧  
杏雨  
此橋  
杏雨  
松芳  
校遊  
後了  
日  
素秋  
踏歩  
生林

よまのまじり 草のまじり 柳の  
草のまじり 柳のまじり 柳の  
かのまじり 柳のまじり 柳の  
かのまじり 柳のまじり 柳の  
うせふらぬ 柳のまじり 柳の  
万葉のまじり 柳のまじり 柳の  
つらく 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の  
ま柳のまじり 柳のまじり 柳の

不悔  
そ和  
傘下  
清酒  
玄来  
昌碧  
裁入  
笑中  
除風  
一橋  
ま松  
一橋











とろも久刀もさうさくつたうま

嵐障

皆柏末人のゆらゆらゆらゆら

香をさすのたまひけよと鱗りこれさ

とささのね載へるゆらゆらを忘れ

とささのね載へるゆらゆらを忘れ

解くはさるもゆらゆら一々更 荷今

山崎ゆら

たろも久刀もさうさくつたうま

いちささのね載へるゆらゆらを忘れ

切りのゆらゆらゆらゆらゆらゆら

ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

芭蕉

一井

我人

不

後燕

無

竹雨

純

美久

去寮

生林

後

純可

嵐

落梧

李桃

東巡



菘のつゆを拾ひぬ女子の花

吉次

深川の産みく

菘のおもひしうくありぬまじり  
きひしあめりあつたをいかにとる

嵐雪  
野水

仲夏

宵のけしき 舞ふまじりて 堂外  
刈のあひのさるるよきあつた  
窓のつゆを 深みせのあつた  
園をまじりて けしき人守りて  
及細く追ふれぬ 深の堂外  
あえのあつた けしきをいかに  
とるまじりの 神をいかに

元捕  
一發  
不交  
風笛  
喜口  
倉吐  
ト枝

櫻井

あつたつゆを 神のあつた

踏歩

さるるまじりて 深をいかに

こころのつゆを 神のあつた  
刈のあひのさるるよきあつた  
窓のつゆを 深みせのあつた  
園をまじりて けしき人守りて  
及細く追ふれぬ 深の堂外  
あえのあつた けしきをいかに  
とるまじりの 神をいかに

秋江  
小春  
杏雨  
二水  
一葵  
胡及  
兎行  
此橋  
長虹  
去来







申より初の花をひく人のあはれと  
夕白の霞の空をよめるは  
山路まよひ夕白の空のあはれ  
あはれをらま夕白の空をよめる

暮夏

楠も新くやまう輝く乃夜  
雪の空腰うけふたむき  
夕白の空をよめるは  
あはれをらま夕白の空をよめる  
山路まよひ夕白の空のあはれ  
あはれをらま夕白の空をよめる

おのころの人のあはれと  
夕白の空をよめるは  
山路まよひ夕白の空のあはれ  
あはれをらま夕白の空をよめる  
山路まよひ夕白の空のあはれ  
あはれをらま夕白の空をよめる  
山路まよひ夕白の空のあはれ  
あはれをらま夕白の空をよめる

如風 俊似 末学 卜枝 秀正 晨風 古梵 芙水 長江 俊似 文瀾







晴るふまあおとゆるりのまのうらま  
まうゆ〜く道にたたり 晴るまうり  
まらも〜に 晴るまうり 晴るまうり  
ののまうり 晴るまをたたりまうり  
りまうり 晴るまの〜まうり 西  
ままわてまなまうり〜まのま  
ひまうり〜まのまうり やまのま  
相〜ま〜まの〜ま 藤菊  
中〜ま〜まの〜ま 藤菊  
ま〜ま〜まの〜ま 藤菊  
り〜ま〜まの〜ま 藤菊

晴行  
一發  
素秋  
芭蕉  
其角  
舟泉  
芭蕉  
作者  
不知  
伏見  
任口  
松子  
胡及

素堂  
俊似

たの〜らな山まのま 晴るま  
〜の 晴るまのま 晴るま

仲秋

かま〜まの鳥のとま〜まのま  
〜のま 晴るまのま 晴るま  
谷川〜まのま 晴るまのま  
石切のまのま 晴るまのま  
谷のまのま 晴るまのま  
庭のまのま 晴るまのま  
田と〜まのま 晴るまのま  
山〜まのま 晴るまのま  
お〜まのま 晴るまのま

芭蕉  
小春  
益音  
傘下  
卜枝  
一發  
一泉  
其角























〇とくらの後六とんそちりし  
 ちる近く櫓のくさるる 葦細介  
 襦きくひ柿のさけける 瓢箪形 一巻  
 本巻の月をくくる人のさけり  
 くと柿乃実ひより ねらるる年  
 のきこころいさるはくさるる  
 〇とくらのこれ柿の葉のてりゆくと  
 門のきこころいさる 恰一巻のひ  
 田畑のきこころいさる 義洞  
 義洞 内容 義洞

雑

年中行交内十二百

供屋の櫓白散

りしひあやとりあやんさるる人た牙

すまのあ

とくらのきこころいさるのつるる介

石清水臨村系

水吉きこころいさるさるる介

薩佛

さるる几つやつりてき洗の佛達

端午

ちも櫓のきこころいさるる 髪為り

施果

ちも櫓のきこころいさるる 虫白草

高子



と巧費

ワラサカウリ 七ツ 草花 花さくよき

約迎

瓜敷も花乃すくや 花さくよき

探中

弟のたまや 是乃おれらきり次

十月五日

即まれ衣之とくうなる花

五節

舞姫に花心持とけさる

追詠

おろけくや 服手まつ 鬼北面

詩題十六句

今日不知誰討命 春風まきよの時来

野水

水お 流るはくさるまきの風

白行着梅深相水

あきものそく けけらる 梅白

まき来 舞伴 閑遊少

花さくよきとく 花さくよき 花さくよき

花下 忘帰 因るを来

森入 かなとく 花さくよき 花さくよき

留春 春不留 春帰人寂寞

花さくよきとく 花さくよき 花さくよき

巖風 吹袂 衣不穿 復不契



絲籠六初う歩園よりとらう

池晚蓮葉謝

蓮の葉もひらひらと落ちる氣が秋

異月食家行延有客集唯賜北窓風

涼光とて切ぬきたりう北のまへ

大底回時心總告龍中断賜是秋天

唐の旗をまいつくさる秋の空

連葉風雨後秋氣胡然好

秋乃雨をまきく瓜よふ人も中

空に瀟瀟物も夜取ら星何欲曙天

花と志きうひつらうさうておきき

鈔影燈旧墻斜光月夜牙傭

獨り集や流ある白のまの月

万物秋中色経増色

空もや生も秋てつむを秋の空

十月は南天氣好く履もく氣望も花

とらうしも志きう一息つくく山も

寂實深村夜弦塵雪中園

許多もまのこぬひくやまのうを

白波水終佛を右經

佛を右のれよ櫻懐く山終まの

襪園より襪ののりし終りも

さびくよおくくそ

銛銛

目立

りまうの夕日よのつたううり

毎家



甘木突 みるく園より鶴を六かへんか  
釣籠 繩歩 かくるまきや 師のまよふよる 秋の里  
糊賣 あまきまき乃らきまらねむつらまら  
馬糞糞 とかきしのかかきまらまらつれまら

本主人

魂在何存香煙引到焚度

かけらへの抱つらまらつらまら

揚子妃

雲髻半偏新睡覚死冠不懸下堂来

ちう風よ常のまらまらまらまら

昭陽人

小頭鞋履後は衣裳青黛點眉々細毛

か人具々應笑

ものねまやむくのまらまらまら

西施

官中拾はぬ眉奈不軟昔は是愛君

あまのまらまらまらまら

玉照

玉照風沙勝畫圖

とれまらまらまらまらまら

一日由らまらまらまら

白梅の影や五佛供焼火のまら

杜のまらまらまらまらまら

隣家乃眠るにつらまらまら

知辰巳

病雪

越人



午 未 申 山獸 蛇 里虫 海魚 川魚

あけひよき年一上を踏んずるも  
憐れ言ふ武家乃又食ふより  
あつちや鶴とあるもあつち

あつちとくしきあつちのしき  
糸笛の上をきつてあつちのきよ

あつちのしき長き目つゝ  
あつちのしきあつちのしき

あつちのしきあつちのしき  
あつちのしきあつちのしき

あつちのしきあつちのしき  
あつちのしきあつちのしき

あつちのしきあつちのしき  
あつちのしきあつちのしき

牛馬四足是謂天落馬首穿牛尾

是謂人

一方ハ梅さく 桃の種まらぬ 越人

樹水

見行

會帖

全

會帖

藏舟於壑藏山於澤謂之固然而

夜半有々力者負之而走

かゝるゝ所走の事さうさう

鐵聖之棄知大盜乃止

七夕よおらすてまかま

銳者矢

整とてくはるまきののふた火うね

桂文

紙者赤

窮民のあつちのしきあつちのしき

市山

藤房

ほつちのしきあつちのしきあつちのしき

一井

所也







舟もあしき舟のわづらひのあしき

南田川

一發

しよのあれ猿橋の船倉のあしき

貞堂

みよしのあしき猿橋のあしき

被堂

あしき猿橋のあしき

芭菴

夕月や杖のあしき南田川

越人

九月十日秋

舟もあしき舟のわづらひのあしき

素堂

あしき猿橋のあしき

於及

あしき猿橋のあしき

淵支

あしき猿橋のあしき

舟泉

あしき猿橋のあしき

尚白

あしき猿橋のあしき

後以

あしき猿橋のあしき

一笑

あしき猿橋のあしき

端水

あしき猿橋のあしき

如行

あしき猿橋のあしき

芭菴

あしき猿橋のあしき

如行

あしき猿橋のあしき

如行

あしき猿橋のあしき

芭菴

あしき猿橋のあしき

全

あしき猿橋のあしき

全















樽乃やるゝ親子はまらけ 佐ね介 玄来  
月や遠く 再やちりる 月影の書 西氏  
ふるさともや 梅の 結ばは年たきる 芭蕉  
○さあしものさし さいたのり 年影の書 除風  
おきまはらへし 一と 数えはえよおとらふ  
初年や 親とあはる 年かへし 載人

二五

まきの世ふむあゝ人のまきあひ 一有妻  
きくわくや余のことよしも 除風  
あつてはくまはる 別介 長江  
むしー丁の月ふまはる 文圃  
あつてはくまはる 文圃  
あつてはくまはる 文圃

きくけりー 姉の娘はまらけ

心棘

とまきお宝お宝お宝

赤月園の 指妻は月影の歌 長虹  
一とあつて 人持りあはれせし 尚白

きくけりー きりきり

つまねりー ことあつてあつて 荷兮  
あつてあつて 月影の書 小春  
あつてあつて 月影の書 載人  
あつてあつて 月影の書 俊次  
あつてあつて 月影の書 舟泉  
あつてあつて 月影の書 嵐叢  
あつてあつて 月影の書 松芳



きぬくさも敷るよもく庵のりり  
おとろくーやきぬくーの比海うき  
昌徳

春中

東都

共あらしをまふゆくの浮世松と文引  
守茂

あらしの浮世

笑の影うつむきまきまの魚  
傘下

東都

南をまやまうくまのやんま  
元順

松島の浮世とみ人のあまうり

たるとふらひあがりたる

橋のうわり 影をぬきうり也  
若守

あらしの浮世

まらうらふうあし〜ゆきまらふ  
京 去来

あらしの影うつむきまきまの魚

あらしの 少風とらあらしうら  
若守

世をまやまうくまのやんま

あらしの 柳の影とあらし  
柳水

辞世

あらしの影うつむきまきまの魚  
まらうらふうあし

あらしの影うつむきまきまの魚

あらしの 影うつむきまきまの魚  
若守

あらしの影うつむきまきまの魚

あらしの影うつむきまきまの魚  
若守



妻の追ひかへし

よもぢ人しきその里人そわれの心 自脱

あふりあふりのあふりあふり

移し自にゆやうくひの心北まはし 玄末

工毎身まうりし後

その人乃野を人あし秋のくれ 其角

あふたれたる子のあふたれを

ねまらぬや部しう合さふ秋のあふ 尚白

あふ人のあふり

押し火あはれあふりあふりあふり 甚菴

あふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふり 尚白

釋教

伊智あふり

邪垣やねのひもくけと煙懸る像 甚菴

負くくくあふりあふりあふりあふり 尚白

西行上人あふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふり 甚菴

あふりあふりあふりあふり

連翹やあふりあふりあふりあふり 胡及

あふりあふりあふりあふりあふり 松芳

あふりあふりあふりあふりあふり 杜因

あふりあふりあふりあふりあふり 冬松

あふりあふりあふりあふりあふり 小春



とらふ酒樽をも 焼入 樽さう成 其角

貞吉つららの入 春の御誕生一日

東照宮の別當信玄の御房の御意

去所迄を在 瓶の法華の御意

とらふ酒樽をも 焼入 樽さう成

春の御誕生一日

越人

空房の御意

たれなく 樽さう成

とらふ酒樽をも 焼入 樽さう成

全

俊似

吉吉や つらぬうねの 草 一井

八の御意

千箇

一井

燕葉

草

芭蕉

尚白

草

一雪

一矢

十如是







花のよき又よきなり一なり一時の  
嵐

徳倉の安國編み

たうしよりの海や直ふ水もえん  
越人

古寺ののき

曙や伽藍く乃ちまをまひ  
夢

日

雪あやうく二より片の腕  
俊似

つらうもくこもられせし多  
一井

朝霧すく人のきりや海うき  
文潤

予観くもまうせり一自のこれ  
其角

葎まき品七句

如字者以天

やの白くむの暖く  
胡及

如裸者得衣

雪の目や海移 捨人おまの家

如商人得主

双六のむひくもくわつてり  
如子得母

行くそくおけそとらりてけり

如渡り船

月乃は清の 穂木さるるま

如病者醫

うさくとき 清くもくをなす  
如晴花

如晴花



秋のあやねのゆるとまらねまら

神巻

吉原やうらまゝのゆる柳ふん 物巻

二月廿のりま納め

ききうらまゝや廿四日の月の柳 物巻

あんとくと柳らうらまゝのりま納め 日

あまのりまのゆるとまらねまら 無病

上下のゆるとまらねまら 神の柳 昌碧

柳のゆるとまらねまら 柳の中 濁雪

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の花 裁入

月代もあまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 泉

雨相

門のゆるとまらねまら 柳の巻 新ねらうらまゝ まま

ゆるとまらねまら 人の巻のまゝのりま納め 香察

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 純了

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 李桃

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 好葉

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 香察

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 香察

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 未学

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 荷兮

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 尚白

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 落格

あまのりまのゆるとまらねまら 柳の巻 落格



若菜のまは

きつちあつねふもあし 邪く楽  
 けのふとほろよとれたの 邪ふ  
 けと舞川 秋明の詠の 邪ふ  
 かつちまの 邪ふふふまを  
 袴脱や 出後うくる 嬌うくひ

祝

肩付ハのくよふあつねま  
 若菜のまは

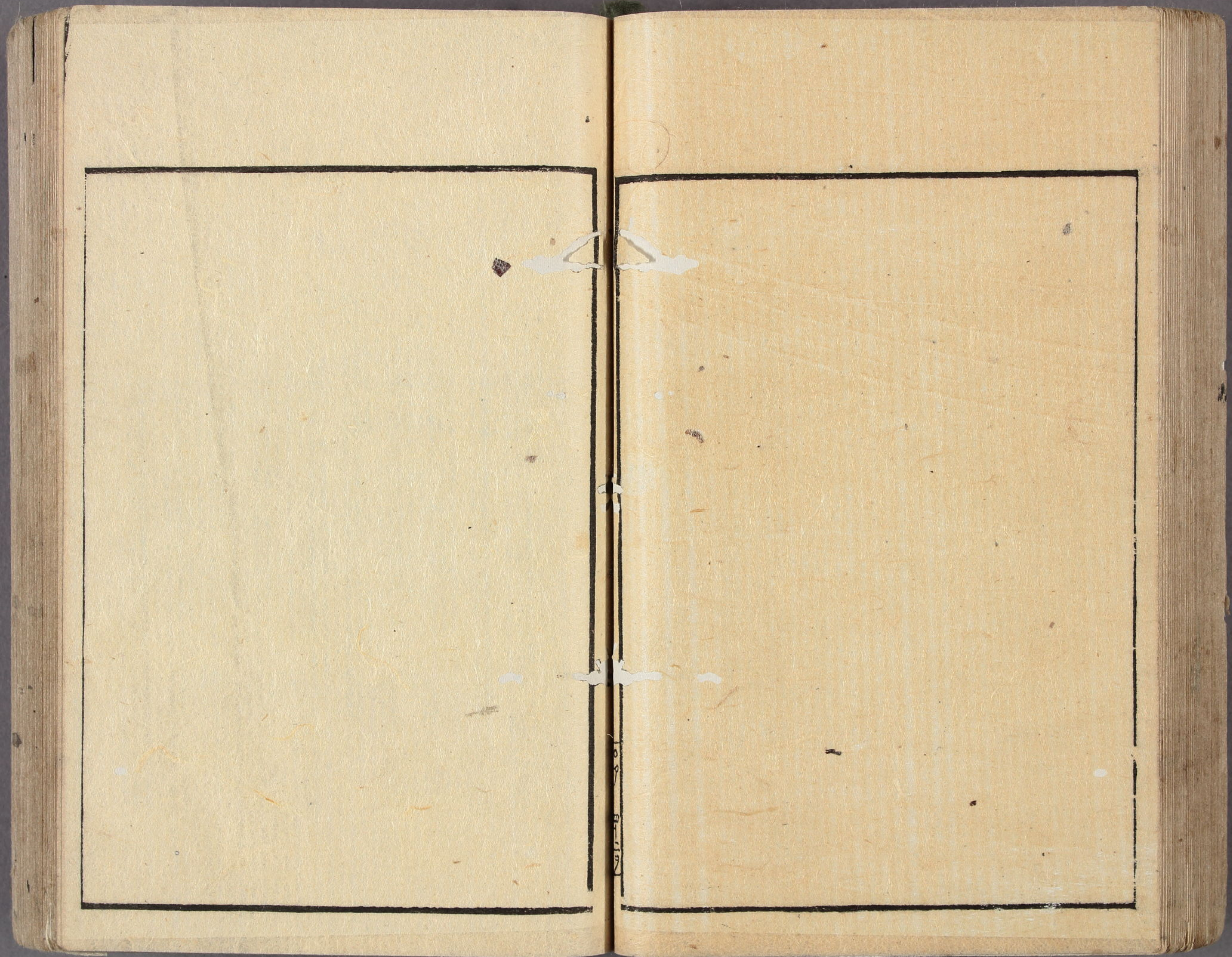
あまきり竹を 産入のうみ  
 まつ代やまのくまのま  
 若菜のまは 何れもとの 仲め

しつちあつねふもあし 邪く楽  
 けのふとほろよとれたの 邪ふ  
 けと舞川 秋明の詠の 邪ふ  
 かつちまの 邪ふふふまを  
 袴脱や 出後うくる 嬌うくひ

先程の 梅をふらつち  
 若菜のまは

利重  
 聖水  
 昌碧  
 村俊  
 卜枝  
 多文  
 兼下  
 裁人  
 兼下







曠野集 負介

誰か花をたのむかよきかなまの市  
ふりておのれのかよきかなまの市  
四月の昔のよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市

此の屋敷の昔のよきかなまの市  
かよきかなまの市  
比田村人居るかよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市

あつたかよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市

素堂

かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市  
かよきかなまの市

水 載人 荷子 中































むくあつらふる酒乃ほ知  
 勢合指告後首すのしく  
 きこ歎きのこみらひひり  
 町をの沖をわく押さく  
 白をたらしをさきつらく  
 多く風よきのこらふのうら  
 半八とらに鏡すまの  
 あつくと月を影の影を  
 人の影すのうらつらく  
 あきつらくおや草をわの  
 下舟のこまのこらふ町中  
 ねらつととゆは乃あのを  
 下 人 下 人 日 下 日 人 日 下 人

皆同のうらや  
 下 人  
 田楽のうら  
 下 人  
 下 人

海川の歌

海をわくあつらふる酒乃ほ知  
 勢合指告後首すのしく  
 きこ歎きのこみらひひり  
 町をの沖をわく押さく  
 白をたらしをさきつらく  
 多く風よきのこらふのうら  
 半八とらに鏡すまの  
 あつくと月を影の影を  
 人の影すのうらつらく  
 あきつらくおや草をわの  
 下舟のこまのこらふ町中  
 ねらつととゆは乃あのを  
 下 人 下 人 日 下 日 人 日 下 人

歌

全 下 人  
 全 下 人  
 全 下 人  
 全 下 人







たゞし〜あつ〜まゝな問ふらる  
りあり〜尾麻乃 末葉あや  
飛き〜さ〜子の 海〜く〜ま〜  
ゆの比 徳〜我 集ま〜く〜あ〜  
田〜し〜を〜ら〜く〜服 集〜ら〜ら  
蕉 人 蕉 人 蕉

お菊よ侍よりねと集る人のあつりま

其角

若〜ら〜あ〜あ〜の文や天降下  
三 吹〜さ〜の 月〜ら〜ん〜あ〜ら〜ら〜ら  
菊 女 秋 の 名 月 集 集 集 集 集  
吹〜く〜 年〜ら〜く〜集 集 集 集 集  
情 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
全 角 全 全 全 全 全 全 全

歯 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
涙 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
集 集 集 集 集 集 集 集 集  
空 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
あ 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
い 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
か 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
海 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
魚 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
と 集 集 集 集 集 集 集 集 集  
集 集 集 集 集 集 集 集 集  
集 集 集 集 集 集 集 集 集  
集 集 集 集 集 集 集 集 集  
全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人



うきせうつけくみぬ人ハ換  
あま舟はあ方船も目えくは  
よーや野船のきりうーうき  
あらしきるや戸よたきまらるる  
意の親ももあふあふのきん  
中ねの心痛り一病ねたら知  
あつ〜くまへ師ききりうー  
夕暮は乃もまらる後のはの  
りくつのはまをあふ強力  
定りらるる舞うらまらるる  
このまらるる〜修勢の八節  
満月〜のあふ〜を海あふ

全角 全人 全角 全人 全角 全人

念者法師ハ秋のあまうせ  
夕ま〜れま〜のあふ〜  
弓す〜のあふ〜実あけのまら  
るま〜のあふ〜の修身あふ  
まのあふ〜の馬士の園ら  
あふのあふ〜のあふ〜  
ひ〜らあ〜のあふ〜

全角 全人 全角 全人

あまう〜のあふ〜のあふ〜  
あふ〜のあふ〜のあふ〜  
月のあふ〜のあふ〜  
あふ〜のあふ〜のあふ〜

出季  
全人  
全角







すかきさるるよはらうらまひの  
あつたの陽入あつたことあつて  
とせうう都とおおひの 傍  
あつたは雲あつたあつたあつた  
落すうららのふたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

格 水 日 格 水 格 水 格 水 格 水 格 水 格 水 格

挑かすささささささささささ  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

格 水 日 格 水 格 水 格 水 格 水 格 水 格 水 格



海より物なき人 日  
まきあいのくさう 水  
新くうとうくと 招

一里の山を登るのり 一井

うきみの先の 龍 胡及

さきくさや 山を引く後 古

肩をさうられ 師よよみ 龍

夕月の入きを 早き塘さ 一井

たらくよ 鯽をつらむ 秋 古

里海く 海をみる 二 日 胡及

さき月をまよわれ ちたれ 古

向られとも 湯よおの 一井

さきさき ちか ちわく 文 龍

うきく ちき 起あう 龍 胡及

さき ちか ちき 越の 雲 古

かあるの ちか ちき ちか 龍

捨らる ちか ちき 女中 一井

浦風よ 脛 月 古

みよもか ちき 紀 魂 一井

ちか ちき 矢 龍 古

蒜く ちか ちき 遠 龍

ちか ちか ちき 龍 古

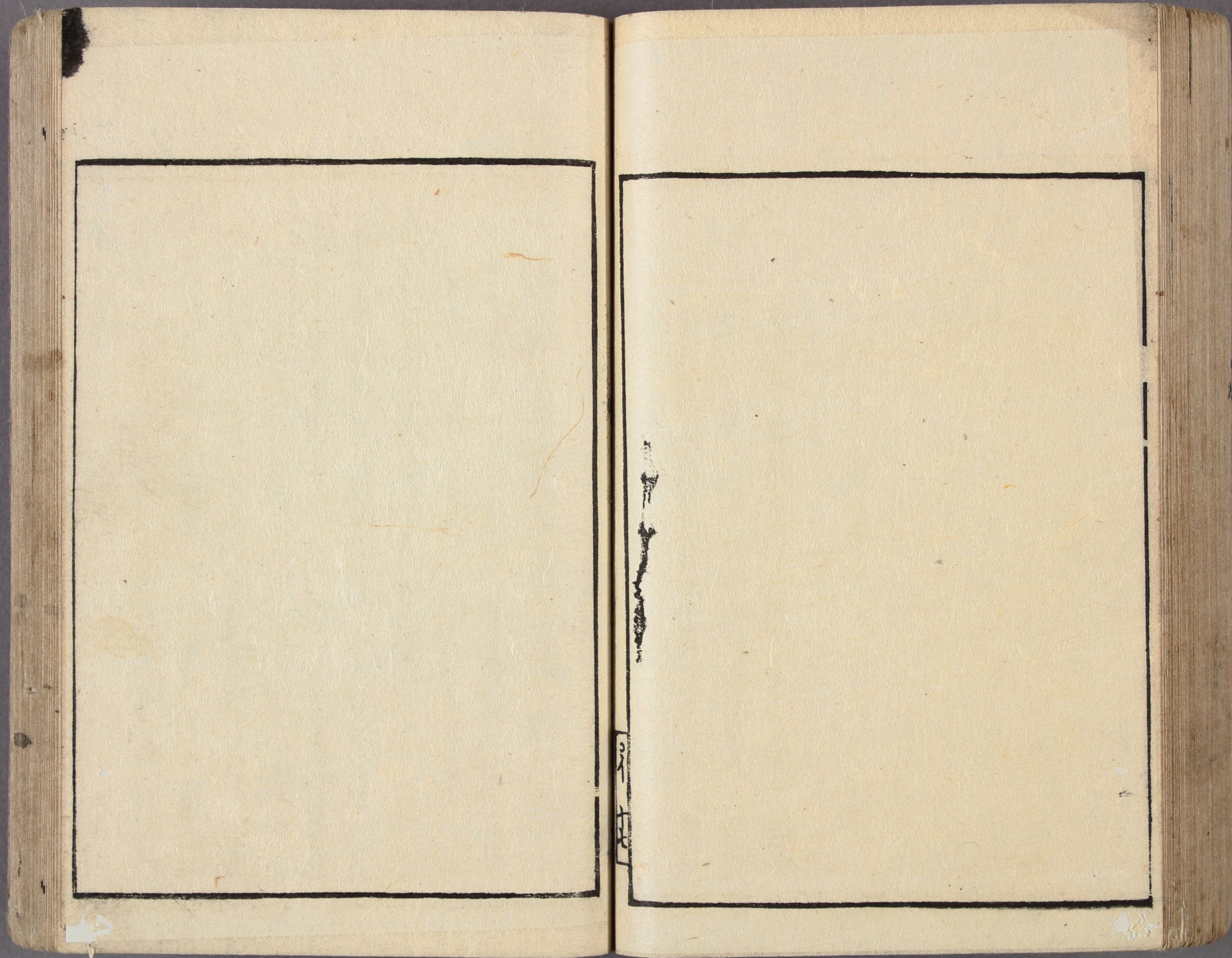
ちか ちか ちき 龍 古

ちか ちか ちき 龍 古









21







あつしつとちとほくむ

元禄七年夏因き初三日 壬午

むつらんいつと日のせり山強六

芭蕉

まのくま稚子乃啼しとほ

芭蕉

系並登陸とまのてすまよとら

全

上乃多あつらにあある年乃座

芭蕉

青乃乃門そくくもや月の実

全

教越を多のあふ乃きひき

芭蕉

法改く兼めくもめいあくは

芭蕉

娘と登る人入りあは歩ぬ

芭蕉

系なうまひおちつる細基子

芭蕉

ことくハ百乃ぬぬ六の月

芭蕉

影けくるみうとらよる白は

芭蕉

夕くくひひぬれお袋乃事

芭蕉

終る尾の持病をまきりふ

芭蕉

てんにや丸えうう窓くる名内

芭蕉

をり丁子舞舞し地あくる

芭蕉

秀成まのふ居合ひとぬふ

芭蕉

町流乃はらうと碎くまの陰

芭蕉

口く押はく壬生乃念佛

芭蕉

ま風くま糞乃いきれと吹すは

芭蕉

多く居るまの眼をわらぬ

芭蕉



江戸乃右左むら白丸亭きせりて  
 こ地にむらけくうら白きうら  
 ろくくは十取乃内表きひのき  
 相の本きく月きゆりし  
 口きめくふまつて神なる面云は  
 日らあて今て表くくす  
 えらうきりせ女房乃おやて振舞て  
 又このえくるきんすあめ筆人  
 法下乃湯治と送る花さうり  
 なハキと下りてすま夏の出来  
 どの家も木のきり家とあけ  
 奥り喰ひくたす乃難飲

芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉

子とくう啼一悲くくえきうたり  
 未を乃ものりそめか母月  
 懐へききくせん嫁さうれき  
 戻風の降りてみゆるる益

芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉

三吟

兼好老建絨りうきはらうり  
 あさみや首るう花鶴堂る  
 片をききあめ少飯のうきやうて  
 介とさくくは園よ相撲場  
 面くくと報自ころの青乃有  
 子猫も鳴鶴堂お生にゆる

芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉  
 芭蕉



次深とともふ流よのまらる人  
 ありとらあれを壺をさる  
 隣うらとらと嫁を傳ふら  
 てくくくくもさるるのわら  
 悪谷の九らハ名橋を渡ら  
 五百のうけと二夜にえら  
 細めまけら平の位あるまら  
 人のさるくぬまを思ふまら  
 新夜の内をさ下せま見うら  
 娘を中へある芋とある月  
 漸と雨降やまそ秋の風  
 鶯のみそハ又新うく

嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波

抱揚る子の小使をさる  
 くらりくと何月の前相送る  
 心みるる著乃せんまら  
 誓のまらと娘の世をまら  
 ことく乃れハ何七娘りぬ  
 手佛の御おはるまら  
 けらゆいの小をまら  
 泰乃娘ハ孫の娘を倒さ  
 了場乃娘の娘をすまら  
 方ハまらくはて人にある  
 今子ノ座やまららるる

嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波  
 嵐老  
 利半  
 母波



う  
まきふくううつてんやうたふ証  
目くくくとゆふのうらゆ  
薄倉乃役ききん達らんる  
うくまの志ぬぬ細川  
物ある母とすしき苦乃母  
すくうひ残る申月の儀  
世城 利牛 虎老 利牛 世城

ふく川ふまうて

孤危

まきまのたさきんりまの仔  
まの乃くう鶴のんくう薄川  
上法と通さぬけの雨うて  
うつと乃そけい何の完中  
世城 利牛 世城 利牛 世城

世城 利牛

藤原の侍もわくそぬ育の月  
そくくくと堀乃くうくう  
あうくくくくくくくくくく  
あのはくす乃くくくくく  
姉とくくくくくくくくく  
信那のりくくくくくく  
風神う飛鳴くくくくく  
家のあうくくくくくく  
銀けくくくくくくくく  
茶の突くくくくくくく  
このくくくくくくくく  
うら 柳は今もあうて  
世城 利牛 世城 利牛 世城 利牛 世城 利牛 世城



空乃紅吹そうーある歌月 孤石  
 子とんかきくものかひひを 芭蕉  
 不存を際中乃わさうちり 岱水  
 とくちう 坊ととよへあうん 利牛  
 後ゆのひをたに撃あーばちあ 芭蕉  
 至うたねるかひとを結ぬる 孤石  
 雲のちうにまうんてぬれ深と盛 利牛  
 雲を送うと持る 福 岱水  
 今ゆのちうに雲れをさうとさる 孤石  
 身貢すんては免ぬる 芭蕉  
 息笑ふ 龍又の志かめくさ 岱水  
 堪忍あーぬセリ乃怒る 利牛

各月のちうに合をく草細 芭蕉  
 けくくくくくくくくくく 孤石  
 ここのろろろの通もさうきく 利牛  
 山乃根際乃 結うたうちうり 岱水  
 よと雲子うよく風の吹ぬん 孤石  
 晒乃よふ日くくく 利牛  
 花乃ふあく女子さうりうまきそ 芭蕉  
 余乃九さうに草をん片し 岱水

芭蕉 孤石 岱水 利牛  
 各九句

百韻



子之深又とてしきく早苗舟  
 岸のいとくらのまの白く  
 ありあうし深敷盤橋のついで  
 とり町くうしむらふ西く勢  
 半竹ふ葉ふ乃純たうしを  
 うう熟れくわく人あま  
 善乃月干葉ふ盡けくは  
 掃を流のうし檀ちるし  
 うぢあきれ中てうしむらふはあう  
 坊まにふれくやうう仁平次  
 松坂や矢川へくはれく通う  
 吹くし勝もつしき園乃夜

利牛

舟坡  
 孤屋  
 利牛  
 舟坡  
 孤屋  
 利牛  
 舟坡  
 孤屋  
 利牛  
 舟坡  
 孤屋

百又  
 七

十二三弁の夜半のまをらひ  
 本堂をうしるまをさうく  
 日のあつる方ハあうしむ竹の色  
 只秀麗くうしはすくくう  
 近く路のうしりの烟をゆわく  
 天丸の相よこそ舟の繁  
 けまのうしるまをさうく  
 橋の空を渡る屋根くうし  
 市常の房く連まふらう  
 夜半のつららの人のそをうく  
 めうくくくうのまのりあふ  
 ほろくくくうの橋くくう

利牛

野坡  
 孤屋  
 利牛  
 野坡  
 孤屋  
 利牛  
 野坡  
 孤屋  
 利牛  
 野坡  
 孤屋



蜷

かみ社をみ川くえはるおまひ  
舞ののるまもふつとを深  
伝くくよふま武ちのあつて  
尚まのふよう今自入大早  
切蜷の冷管ほしる極こそと  
くしうり納をまははるる道  
瘧日まままきつうとまはる  
あまきすけしるりたのまを  
つまのあまのまをまのまを  
とまののまのままき井の本  
くまの月様ふもまある古  
すのまのまのあまのころてん

利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋

ひのそふとまのふとる海まき  
戸てうらうらみー水風あのをね  
伐透と推し捨のすれあひま  
あひの山宮入あつとまき内  
院とまの宿の男のまをうま  
解まはまの風のまをま  
解橋の印をまきくまをま  
天満のゆをまきすれま  
屋の社をまきまのまのま  
ひく新まきまのまのま  
物まきまのまのまのま  
十にまのまのまのま

利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋 利牛 聖坡 孤屋



月花よりきりけのぼるり  
 法より風海雲よりぬ挿  
 三 棧陣能くこのまゝに起りり  
 少なるのころのさき離るる  
 極端の時ころのさき出と  
 酒の残りけきをさめくつる  
 ま細の習地より流る侍尔杭  
 夢ももあつて世のつらさ  
 物ももあつたなれたくさ  
 又此處の古ききりくく  
 夜もものうらよ上ねを二と  
 くのくえんく、寂しくくさ

利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波

為事乃こまう初を治せ  
 一 つくたうく 簾乃雲 獨  
 殊所より荒川うきらね乃内  
 ちよめすくたさる 雲乃嶽あふ  
 めを纏くをぞくつる 聴のま  
 又たのみくく 又たなよりき  
 かささくの中あに北自とさつて  
 入るる人より 味信豆とちん  
 ちちうのゆき 赤粉給乃我田川  
 内筆を乃みゆる 宿乃乃たき  
 ほやくくくくくくくくくく  
 ちちちちちちちちちちちち

利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波 利牛 孤屋 世波







城もさぬ跡治屋のそよの春さじ  
川建 志見 町 の 相持  
彼岸もさす乃花の咲きく  
三人ちりりおのりもま  
利牛 孤屋 柳坡 狹野

### 春之部 護身

五才

草花もよみたりや 伊勢の初使  
事やまよひしとくさくさ  
みちのくさくさ 園城の葉の海を  
まや 後小丹波も麻も海も  
刀さし世もつまらぬ 京 五才  
横 五才

ひそりしきまを花のくさくさ  
冷いしや 木更のにわりの持  
程のきれい 門徒坊のまね  
目りも中の 初や年の時  
初日親もまよひしとくさくさ  
まねの 親のまねとまねのまね  
梅  
梅一本つまらぬ 糸のなまらぬ  
ひちりや 白の梅木のよきまらぬ  
ひちりまのまねもまねのまね  
まねのまねのまね  
ひちりや 糸のまねの月の白  
大坂 酒堂 谷水 沾圃 孤屋 利牛 野坡 露活 曲翠 支考 土芳



梅咲く湯釜の崩れをりり  
 赤みその口を咽りりひめの花  
 みみくよ 咲そらねと梅の花  
 紅梅の娘すまはる書戸の形  
 其角  
 七郎のや 舞ひあうけて切刻  
 うらひねく若菜梅の腰巾  
 仙杖  
 浪よりのおのちり  
 松月一豆つもりうまう那  
 本草  
 △大さくや 藤のゆきまふ松月  
 仙花  
 おゆる月まこころあさねぬ花外  
 仙花

保川のついで

長きやきき乃ゆりも三ヶ一  
 十五日まや 藤月乃古の貴  
 猫乃長初よりうきと古く  
 ぬこの子のりんつ原にれり花外  
 其角  
 うらひ夢よほくく多なる花外  
 出雲  
 昔子菜とく人々あめり文  
 牛角  
 うらひまめあめり花外  
 桃院  
 うらひんや門をたむく豆娘  
 丹波  
 昔れつあめりも 命をのりり  
 利牛  
 柳



こねうさつて極一柳子  
はまよこし月のかみく柳子  
又人あらしめてあつて柳子  
せきよえの尾ハ月さる柳子  
町たうくあつてあつて柳子  
傘の柳あつてあつて柳子  
芭蕉

椿

おとこよ羅ふちり辺桂うも  
杖もく伐らぬ多を椿うも  
念のくまううううううう  
流のくまううううううう  
多のぬもぬもぬもぬもぬも  
孤屋  
湖春  
曲野  
嵐  
支考

四五十三

たきま 柳 篠 志 柳 篠 志 柳 篠 志

花

ふのく花をよよう けうしんく  
幕あきさつあまのく 幕あきさつあまのく  
かなりよるううううの柳うけあつて  
はらこさつのはらうううううう  
あつてあつてあつてあつてあつて  
うううううううううううう  
何のううううのうううううう  
中しんもそまおあつてあつて  
花あつてあつてあつてあつて  
朝あつてあつてあつてあつて

孤屋  
玄来  
素然

文州  
松風  
芭蕉







勝つるも金赤とむ小あゆみ  
まきぬも輝の葉つてふむわの端  
まきぬもついでに葉や二三  
あそびくことみ鏡門のつとあか  
そこのあかひのく隈や風の末  
まきぬもついでに葉のまきの末  
仙華

勝つるも

法度坊の地より肉のすまんが  
野坡

は葉のまきついでに葉を結ま  
まきぬもついでに葉を結ま

雲もあつてはまきぬもついでに葉を結ま  
利半 野坡

夏都之世白

首夏

遠くを乃裏は見えはるく  
衣のく十日をやせんまはるく  
縁とぬく旅ぬはせり衣更  
あそびくやれきとあやなはるく  
あかのあけけきとあやなはるく  
麻屋のゆきあはるく  
くらのあ  
知れぬもやうきまねのあはるく  
くらのあ乃絶るたふ之園の門  
旅り

岩  
母坡  
丸  
子珊  
利半  
草  
素



う乃そたよ昔毛乃るるの秋明水 許六  
卯の花中 柳あつたあかつた 支考

歌一々々

棹の歌をやうう深一りト々々 漱英  
梨も多祇他は蓮あつた長小 素堂  
うらみのまや竹の子歌に老と存 芭蕉

郭公

空やうき二階よわううほきき 桃歌  
ほきき二の拾乃あつたあ 兵角  
形蛇と月をあつたせんほきき 嵐堂  
挑灯乃をうう陰をううあつた 秋風  
あつたあつたあつたあつたあ 芭蕉

まをうやあつたあつたあ 子規 素堂  
けきうううう風が雨あつたあ 利牛  
子規あつたあつたあ 母坡

小麦

柳さふ小麦あつたあつたあ 荆口  
麦の穂と方あつたあつたあ 千川  
小麦の田柳あつたあつたあ 許六

公舟の穂りと川さあつたあつたあ

刈りみ小麦乃白のやあつたあ 利牛

おあ一々々

麦畑やあつたあつたあ 母坡  
おあ一々々



浦のやむくく 蠟のふきれき 山 水

端午

五月の雨や傘小付と人形 其角

さく物あしくみちやけつふれはる 大 雲堂

五月よりくあすみあつるあやめ 桃 浪

又もあくとしあやめ 糸 五把

みとのやを首の骨ころ曾き 仙 花

帳子のきくぬきあつる拾うね 素 紗

夏菰

並ねとみくのく町のはつさ 卧 高

括の事と首の骨あつる一はれ 錦 山

二三の事 錦をゆきとあつる 舞 町

いづ山力カ及んぬあつさハ 棧 錐  
すも地やたけとまを茶の白 菖 菖

はるの地田より代り

五月雨

はるのれやとあつるあやめ 素 菖

五月の雨のさやと川大和川 桃 陣

さきとあつる小物と茶の白 丹 波

まじりあやあつるあつる 山 蘭

この白を桃陣よりあつる

五月の雨や素のまじりあつる 成 多

涼

川中の根あつるあつるあつる 菖 菖







けうとくふの響は栖や雪の峯 菰浦  
一枝とすけきふ所のわらえ小 仙花  
竹のそや見えたる歯ききふりき 岩窟

さるべき人僕ら何ぞたむらふを  
戒めむして寝せしむきらにありて  
それとなくあきあきけりり  
名あふかちりくとえぬとありて  
くねとけりてあき

改く改く名乃つくとありて小 利牛

あふ人の別業ふとありてありて  
てありてありてありてありて

ありてありてありてありてありて 田坂

穂と部

秋の穂の穂の穂の中  
月を穂の穂の穂の中

名月

名月やうつあても居ぬお下さ 池美  
名月や極るまらに素の虚 玄来  
名月やことごとくを知らぬ 荷子  
名月や後夜起に素の 西堂  
△名月や生ぬ揚りてありて 里東  
ありてありてありてありて 利牛  
家とありてありてありてありて 其角  
むらうの伴の月ありてありて

望峯ノ不盡筑波を

明月や名二つとありてありて 素就



七夕

世のまふ枕分をやりしむ人  
星合ふよもえまをやりぬ縁  
七のやあつらうらうらあまの川

其角

狐登

炭雪

孟董盆

さうまうひうらうらふねをまうり  
踊るまきるところ舞てまの月  
まの月わらうと門をうらまう

酒堂

李由

丹坡

胡良

内関

胡良やまふは流あつた門の垣  
胡良や日傭あつた所の垣

甘藷

利合

てうらふと胡良をうらた柳の

遊春

秋虫

てうらふと胡良をうらた柳の  
海のふ人のこまうらやまうらうら  
端指うらうらうらうらうら  
さうらうらやまうらて進める橋の上

大津

碧月

文才

お方

孤を

鹿

な鹿の啼をうらうらうら  
人のうらうらうらうら

車来

舞のまむらや初めの行植敷

土鈴

旅人のとま

△直にうらやするひうらうらうら

土芳



草花

宮城野のさくらやまより双の花

桃隣

花すききさくくちくちくやたすま

母臺

序の島のさくらや川に流るの程

猿錐

芦乃野や鳥松掃きまらる

大巾

あよまをばよく

芦のやま著る川うまや苔の橋

玄素

山中の草花をよみ

草花や鳥のさくらあるまらる

其角

園菊

菊細くくめる香のなかりけ

杉風

陣菊もさくら咲かぬ九月の

桃隣

〇ス 二十一

秋極拍

柿のある本と子とよのさくら

利牛

落葉や谷子あつて蟹の甲

祐甫

秋風や茄子乃菘のあつて

木白

箕子千とく窓よりちくちく掃の松

孤屋

さくらさきの花を南窓よりしとらふ

うらうら無言をんくひさしりゆきや

未詳

あつてはさくらあつてちとこのあつて

ゆきあつてひさしりゆき

うらうら名月ハ世をわすれず

天資自然の理さくく恨み



昔よりくちや石甚くゆめせしむく竹旅  
めくしのこいあつた上ははは合しはれ  
すつたものそれとあけのつたまうりて  
やひ乃とつれ二階のつまおりのひをて  
しめあつたあやうくみせつと加良の  
そまあきまひいへんれあくおりのま  
えつたつた發のまもくおふりうりれ  
てのんち楷の足とつたまみまうあつた  
ふ合まきまのりきまと九せられたる  
たて豆穀のりは紅葉の色とみまを  
まきまの頂上とせつとくハとてあつた  
少神のりつてのゆめつたみちのりつた

かきまこころの二あつたあつたあつた  
むらみのりしをまらせしちりつた  
やちららるるまあつたあつたあつた  
人くは此まをまらつたあつたあつた  
このまをまらつたあつたあつたあつた  
小序とまらつた

石甚くとつた根とまやまらつた

冊城

おれまらるるあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

山老  
大草  
西堂  
為号



草竹や 薺の 藪も 見へ ぬ 魚  
夕白かりけ 八秋 一 海邊 ぎ ぐ  
く 秋 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風  
秋 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風  
庵 丁 乃 片 柳 ぐ ぐ 月 の 雲  
冬 之 部

初冬

風 中 沖 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
市 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
あ 枝 乃 破 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
様 本 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
院 の 梁 乃 ぎ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

利合 支考 小枝 依之 其角

其角 排障 芭蕉 支梁 斜成

〇又二十

刈 草 多 矣 此 外 の 事 亦 存 在 小  
風 此 兼 子 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
初 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
風 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
丙 亥 乃 山 子 路 ぐ ぐ

相実 砂香 楚舟 八条

本 枝 此 根 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
台 帝 月 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

桃院 磁刀

時雨

芋 食 乃 後 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
悪 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ  
昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
ゆ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

荆巨 夫少 科根



まゆとあはれを成く一丸事

汗六

膝ぬのころ

小蛇舌虎とまろりの向を扱やまぬ

世彼

大根月とらふるを

鞍毒小小坊とまあるや大根引

芭蕉

津ををしくわらふえそ大根引

世彼

神送廿五とらふ月の去大根

酒堂

はむささや下のあまやか

人妻のあまやかをさむさむさか

世彼

このひをえ接接しはむさか

赤蜂

葛まき物よりあまやかをさか

利年

とくちくもまきくくをさむさむさか

我眉

臭之店や蒸うらよきあ乃月

里东

たの三白とふく川の香をさか

他園うのあまやかをさか

今まき物よりあまやか

雪

まゆとあはれを成く一丸事

世彼

初まき物よりあまやかをさか

利年

まゆとあはれを成く一丸事

買山

雪の月よき店借

俗く

雪乃月やうきやうきをさか

横雖

あまのあまやかをさか



杉のくもも然く夜の露  
朱此鞍や依中かろのまれ駒  
くろくまやせまをむくくつらむ  
岸をまれば旗冊さるるも吹式  
海山のくも停るるも吹くらね  
白の舟や曲突くまをるるも吹式

歌ふま

かましこれ狗よおと込 杉舟のぬ  
まをらぬや杉糖のうら白の湯  
神門乃の舞りぬ袋おらぬ十束か  
川や流るる乃益おらぬ村くく  
白魚の志ろくま白ひや杉の箸  
と送

〇八 千五

櫓の火やあつつき方此あつ人  
庚申やこくく火旗乃あつ中  
流るる流るる流るる人まて神案  
海く流るる流るる流るる流るる  
すくすくすく  
蝶くくくく己う棚つる大工く  
蝶舞 せくくくくくくくくく  
餅つるくく元後さくくくく  
山臥のくくくくくくくくく  
待まらぬ氷くくくくくくく  
山平 又くくくくくくく

山平

文甲 杉香 其角 全 芭蕉 万平 母坂 岩香 智月 杉風



くらまきさぬ華もつり年れき  
 ありさきく雪一羽とりの星  
 猶もこのけをくしきま年のき  
 ころのあまをくしきま年のき  
 〇海のもれあふまきさしはるい  
 世貴ころのあふまきさしはるい

くらまきさぬ華もつり年れき

瓜丸く心やさくしや年ころり  
 素秋

け年まきさぬ華もつり年れき  
 淑秋

誹諧秋之部

〇又二六

秋乃毛尾上の杉は難ねたり 其角  
 おくれくく一羽体わくれき  
 秋乃毛尾上の杉は難ねたり 其角  
 肉の厚くくは麻乃門 全  
 秋乃毛尾上の杉は難ねたり 其角  
 了らひるま丸をくくくく  
 下まきさぬ華もつり年れき  
 坊ま乃まきさぬ華もつり年れき  
 其角  
 息吹うくくく霧乱の針 其角  
 田の畔まき苗把と扱て金 孤屋  
 石字有のくくく編ま乃まき 其角



















月よあまのつれの移らまじ  
そとまのちき乃三内中付  
瑞炭北ちうとらまの風

丹波 孤屋 利牛

芭蕉 丹波 孤屋 各九句

雪のまおまにみまの尚まじ  
日の物まのちの赤まのま  
が青まを二舟渡ま赤ま  
あつとままのし大谷の供  
身まあまの風まあつと月お  
粟まとくまのひろま島地

杉風 孤屋 芭蕉 子珊 桃原 利牛

〇ス三十二

う 慈谷北 滝まのま 妙乃水  
まおとくまのし 盤子にま  
二三まを 赤まのし ぬ門の風  
る乃まの 抄のまの 干りの  
竹のまの 踏まの まのま  
猪まの 子のまの 雨乃まの  
あまの 一人まの ぬのま  
あつとまの 風まの ちまの  
ちまの 乃肉まの ちまの 旅大工  
まの 中人のまの 児まの 八や  
まの ちまの まの ちまの  
別まの まの 小 熟まの

岱の 丹波 子珊 佔園 石菊 松風 丹波 利合 信々 桃原 子珊 石菊







撰者芭蕉門人

志木氏 野坡

小泉氏 孤屋

池田氏 利牛

〇ノ三十一

Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a list or index of names and titles, including names like 芭蕉, 小泉, 池田, and 志木.



安の...  
 大鵬館主人の...  
 長月乃...

沈潜書籍目録

精仙堂藏板

沈潜七部集

妻の日記の目録... 沈潜七部集  
 朱徳河... 書後本七冊

同 續七部集

源川集... 續七部集  
 有破海小文... 千巻掛 小本二冊

其角七部集

直栗... 其角七部集  
 津浦... 續七部集 小本二冊

燕村七部集

其角... 燕村七部集  
 廣以鳥... 續七部集 小本二冊

芭蕉翁五部集

其角... 芭蕉翁五部集 小本二冊  
 續五部集 文考選 一冊

奥の細道

奥の細道... 奥の細道 一冊  
 枝の... 奥の細道 二冊







